

ご厚志をありがとうございました

秋元新太郎 様	深江敦子 様	鎌田幸江 様	稲川光 様	栗原さだ子 様	若杉秀則 様
天野ハル子 様	鈴木クミ 様	清水好枝 様	西端哲雄 様	吉田良子 様	秋元堅次 様
深作 孝 様	鈴木積 様	高橋明子 様	林照高 様	若林浩文 様	小暮 久良 様
飯嶋京子 様	鈴木武之 様	武田勝善 様	深町澄江 様	根岸 文子 様	小野寺依子 様
石原節代 様	金森成子 様	田野政雄 様	細田等 様	館山輝明 様	増野和明 様
板垣弘道 様	神谷正一 様	中村誠治 様	堀口幸男 様	宮田敬一郎 様	代吉和 様
市岡純子 様	菊地毅彦 様	中村芳子 様	三輪博 様	橋本秀光 様	藤井靖子 様
永鉢照子 様	小山清 様	大日向幸世 様	鷲尾正和 様	橋本操 様	加藤 なか 様
大澤充 様	近藤佳代子 様	佐藤義雄 様	木附久江 様	濱谷忠男 様	西出都 様
小川武夫 様	坂井靖久 様	松本自動車 様	岡村自動車 様	島田青果(株) 様	堀口初男 様
岩崎 久雄 様	中野恵子 様	環境工学研究所 様	妻沼東中学校 様	ヒューマンネット 様	
太陽設計(株) 様	(株)カイゴテック 様	埼玉日産自動車(株) 様	NPO法人 彩花 様	あいおいニッセイ同和損保 様	
日本食材 様	埼玉森林病院 様	足利ガス株式会社 様	ヘアーサロンミズノ 様	ケア・クロスくろぎ 様	
(株)ケー・ジー・エム 様	荒川青果 様	ホンダカーズ埼玉北 様	東京成徳短期大学 様	ヘアーサロン サポート 様	
熊谷観光バス(株) 様	菊屋 様	西武リース(株) 様	栗原自動車 様	(株)ベネフィットシステム 様	

秋の信州へ
(むさしの青年寮)



10月12日(金)前日からの雨も上がり、秋晴れの中、みのリファミリーの旅行に行ってきた。行先は長野県です。秋といえは……食欲の秋! ということで、まさに食い倒れツアー。まずは、信州名物「おやきづくり」。地元のお母さんが教えてくださいました。中に具材を入れて、生地を丸めるのには皆さん一苦労。そうして蒸しあがったおやきは、ホカホカでおいしいそう。でも、ここで食べてしまうとお腹が! なので、ひとまず袋に入れて、昼食会場に。昼食は「きのこづくしご飯」。大きな鍋に入ったきのこ汁は絶品。次は、電車好きの方お待ちか

ねの「ハーモニカ列車」に乗車。電車の中で車掌さんがハーモニカを吹いてくれるので、皆でそれに合わせて唄います。廃線の危機を打開しようと始まった取り組みのようです。大きい声で唄ったら小腹が空いたなあ。よし、さっきのおやきを食べよう。皆さんベロリ。

さてさて、バスで移動してお次はりんご狩り。(まだ食べるの?なんて声が聞こえて来そうですが。)ここで、普段はあまり感情を表現しない利用者さんが、たわなに実るりんごを見て「うわー! りんごだ! これ取って食べていいの?」ととっても嬉しそうに聞いて来ました。「もちろんですよ。たくさん食べましょう。」その方は「そろそろ帰りましょうか。」と声を掛けるまで、もぎたてりんごに夢中でした。こんな表情を見たのは初めてかも知れません。

まだまだ私が知らない利用者さんの顔がたくさんあります。そんな新たな一面を引き出せる行事を、これから企画していけたらと思います。(徳江)

迎春 むさしの

埼玉の互助組織「サポート協会」様の会報に、利用者さんが描いた作品を掲載していただきました。年賀状にも使っていただきありがとうございます。



— 理事長 山下 達也 —

新年明けましておめでとうございます。平成最後のお正月となりますが、皆様には、穏やかな時間を過ごされていることとお喜び申し上げます。また、旧年中におきましては、当法人への御配慮に心より感謝致します。

年が明けると間もなく新年度、春の謳歌はいつのことやらと暑さにうなだれ、秋の気配も程々に容赦なく寒さと年の瀬が押し寄せてくる。歳を重ねるごとに1年の早さに驚かされ寂しさを感じていますが、ここに来て、話題になるのが『老眼あるある』顔を遠ざけたりスマホを近づけたり、足の爪が切りづらいつらいつらとか、ハズキルーペは何者だといわんばかりの話になる。一緒に頑張ってきた同世代の仲間が老眼鏡デビューとなると寂しさを通り越して哀愁を感じる今日この頃であります。

さて、話を転じますが、老眼はいずれ皆さんが、また、国民の 6000 万人が近視であるといわれています。もしも眼鏡やコンタクトがなければ、現代社会は円滑に動かなくなることでしょう。何より車の運転は危険ですから移動もままならなくなり、デジタル社会を支える膨大なプログラムの管理もより限られた人にしかできなくなります。つまり国民の

半数は視力の障害があるものの、眼鏡による視力補正(支援)により障害があることを意識せずに暮らしているのです。しかしながら、その有難さが語られることはありません。もはや補装具ではなくファッションの位置づけになっています。ですが、それでよいのではないのでしょうか。眼鏡を福祉サービスに置き換えますが、社会の中で、特別なものとされるのではなく、本人も障害があると忘れるくらいのさりげない支援が最上なのです。逆に、恩着せがましく大げさで足らぬ上にあれこれ条件まで付くのは最底辺の支援で(もはや虐待か)、そうならぬ意識は必要です。

むさしの郷は、爽やかで、気分が合ひ、量も質も間も丁度いい、そんな掛け心地のよい支援があたりまえに提供される法人でありたいと思っています。

「春隣」 (ながい寮 施設長 栗原 和義)

司馬遼太郎の「花神」の冒頭に「一人の男がいる。・・・歴史が彼を必要としたとき忽然と現れ、その使命が終わると大急ぎで去った。もし、維新というものが正義であるとしたら、彼の役割は津々浦々の枯木にその花を咲かせてまわることであった。中国では花咲翁のことを花神という。彼は花神の仕事を負ったのかもしれない。彼、村田蔵六、後の大村益次郎である。」との一節がある。この偉大な人物に准えることは、あまりに僭越で烏滸がましいが、それでもまさに自分の生き方の理想そのものがそこにある。

「歴史が彼を必要としたときに忽然と現れ、その使命が終わると大急ぎで去った。」・・・それは人知を超えた自分の力ではどうにもならない「流れ」の中に存在し、自分の意思とは関係なくその流れに逆らうことはできないものである。だからこそ、自身が終わりに

社会福祉法人 むさしの郷 事業所一覧 <http://www.musasinogou.com> むさしの郷 検索

□ 障がい者支援施設 ながい寮・法人本部 〒 360 - 0125 埼玉県熊谷市上恩田514-2
TEL 048-598-7007
【施設入所支援 生活介護 ショートステイ】 FAX 048-598-7008
E-mail honbu@musasinogou.com

□ 障がい者支援施設 むさしの青年寮 〒 355 - 0008 埼玉県東松山市大谷4730
TEL 0493-39-1895
【施設入所支援 生活介護 ショートステイ 日中一時支援】 FAX 0493-39-1380
E-mail seinen@musasinogou.com

□ 障がい福祉サービス事業所 けやき寮 〒 360 - 0211 埼玉県熊谷市善ヶ島3310-1
TEL 048-588-1358
【就労継続支援B型】 FAX 048-588-8830
E-mail keyaki@musasinogou.com

□ 共同生活援助事業 未来ホーム(グループホーム) 〒 360 - 0203 埼玉県熊谷市弥藤吾578-18
【東方ホーム、福嶋ホーム、コスモスホーム、未来ホーム、一路ホーム】

しようと思っても終わりにできなかったり、まだやり足りないと思っても終わりにせざるを得ないことにもなる。もし仮に「天」というものがあるとすれば、それはまさに「天の意思」とでも言うのであろうか。

しかし、人間は生きている限り自身の役割から逃れることはできない。生きるということはその役割を全うするというに他ならないからである。一つの役割が終わっても必ず次にそれを必要とする出逢いがある。そして、そこでの新たな役割が与えられ、その役割を終える時まで使命が続くことになる。そのすべてがやり終えた時「天命を全うした」と言えるのかも知れない。

人にはオンリーワンの役割がある。それを見極め育んでいくことが求められるが、周囲と比較することも、他を羨むことも全く意味がない。人の真価は能力や才能ではなく、何を選択するかである。自分が危機に陥って失敗した時に「まず、そのことに対する言い訳、保身を考える」か「如何なる責任も厭わず、大局を見極め、必要な処置をとる」のか、いずれかの行動をとるかによって大きく生き方が分かれることになる。利害だけの結びつきは、その利害が消えればすべてが消えてしまうが、信念に基づく行動は、一時は不遇に甘んじることはあっても、その絆によって色褪せ消え去ることはけてない。

顧みれば、私の存在など朝露の一滴にも満たず、その歩みは砂漠の足跡の如くであろう。かくの如きちっぽけな存在がこの世に生まれて死を迎えるまでにどの様な生き方をしたかをほんの少しでも伝えられ、出逢った人たちの心に残る何かがあったのなら僥倖と言える。願わくば、その一滴が多く英知によって大河となり、また、砂漠の足跡にこそ弛まぬ努力によって緑を芽吹かすことを信じたいと思う。

春の訪れこそ、まだ目にするものは少ないながらも、一步一步着実に季節の移ろいを肌で感じている今日この頃、今日まで出逢い支えて頂いた方々への想いと、もうすぐそこまできている小さな春の気配やそれ待ちわびる気持ちを「春隣」という季語に込めて、これまでの感謝の心を添えつつ、人生におけるひとつの結びとしたい。



日帰り旅行＞ けやき寮

利用者さんがとても楽しみに待っていた今回の日帰り旅行は「羽田空港」へ行って参りました。工場見学では社員さんながらの入館証を首に下げて入館し、必ず守ってほしいことを説明されてから、飛行機のエンジンの仕組みなど簡単に分かり易く解説していただきました。格納庫では飛行機を修理している場面や離着陸、なかなか見られない政府専用機が目に入り、利用者さんの表情は驚きと喜びでいっぱいでした。

国際線旅客ターミナルでは日本の伝統や文化の雰囲気が見られ、昔ながらの江戸のお店や町並みを散策してきました。その中には海外の方もたくさんいらしており「なんだかおもしろいね」と楽しんでいました。展望デッキから見える飛行機のエンジンの音の大きさに「さっきの見学したところより遠いのにここまでエンジンの音がよく聞こえる～」と目を丸くしていました。

夕食はホテルブリランテ武蔵野です。テーブルには立派な箱が並べられていて、蓋を開けてみると和洋折衷さまざまな料理が盛り付けられており、あっという間に完食されている方やジャズのBGMを聴きながら心地よくゆっくり食事する方もいました。

帰りのバスではお腹いっぱいであたたかみを感じている方や「次はどこ行くのかな」と来年の行き先を気にしたりする方がいました。そんな利用者さんの表情を見ると、またみなさんと日々の仕事を頑張ろう、という気持ちになりました。（柿沼）



『振り返り』

（むさしの青年寮 支援員 吉田 真也）

ある日の買い物帰り、ベトナムの青年に道を聞かれることがありました。青年の行きたい場所が分かったのでその場所まで案内しました。その道中会話をしてみると、建築の仕事をしに日本へ来ているとのこと。ベトナムから日本への仕事となると介護の仕事が多いと言っており、ニュースで聞く『外国人労働者』というワードがより身近になった気がしました。もしかしたら将来的に海外出身の人が同僚として入職される日が来るのかもしれませんが。

海外の人の入職を現実問題として考えると、言葉や文章の難しさが頭をよぎります。これまでの経験の中で、情報の共有や、同じ目的に向けて考えるということを難しいと感じることもあったからです。考えや常識というのは人それぞれであり、自分と異なる意見も「そういった考え方もあるのか」と知見の1つとして捉えることができると良いのではないかと思います。

しかし、人には感情もあれば慣習もあるので、時には対立することもあります。相手が何を言っているのか、今この場のやり取りは何を論点としているのか、ということを整理できると良いのですが、感情が高ぶれば自分の意見を優先させてしまいがちになります。そうなるお互いに落ちついて議論を展開していくことが難しくなるのかもしれません。感情のコントロールもまた難しいところです。振り返れば自分の

足りない部分が思い浮かびます。

ベトナムの青年とはスムーズに会話ができたわけではありません。単純な会話だったから理解できたこともあるでしょうが、意思を伝える上で足りない部分は『言葉』だと、お互いに分かっていたことも大切だったのではないのでしょうか。足りない部分を1つずつ知ること、自分の成長に繋げていければと思います。



＜クリスマス会＞ ながい寮

12月に入り皆さんに少しでもクリスマスの雰囲気を感じてもらえるよう装飾をし、当日は男女に分かれてツリーに飾り付けを行っていただきました。それぞれ個性あふれる作品に仕上がりました。次に笑いを誘う物当てクイズをして、その後、今年行った様々な行事のビデオを鑑賞。自分が映ると皆さん喜ばれていました。

午後は男女対抗紅白歌合戦。皆で一緒になって歌って踊ってとても盛り上がりました。それぞれ手渡されたクリスマスプレゼント片手に最後はケーキも食べて皆さんご満悦。当日は地域のボランティアさん、保護者の方や実習生に参加していただき、おかげ様で楽しさいっぱいのクリスマス会となりました。次回も皆さんに沢山楽しんでいただけるような催しを考えていければと思います。（黒羽）

